

ほんなもんぼ体験学校 第2回(田植え・生き物調査)報告

日時 6月25日(日)9:00～
 場所 巨勢町大字修理田
 天気 雨/曇り

参加者の皆さま

6月25日(日)の田植えは、たいへんお疲れさまでした！
 雨が降る中でしたが、無事に体験学校を行うことができました。

皆さん力を合わせて、テンポよく田植えができましたね。泥だらけになりながらも、楽しそうに作業をされていました。田んぼの生き物調査では、子どもたちがすくい網を手にも、夢中になってホウネンエビやカエル等を捕まえていましたね！今回植えたお米は、9月末の体験学校で稲刈り・脱穀を行います。秋には収穫の喜びを味わいましょう。

泥んこになりながらの
 田植え
 お疲れさまでした！



お米ができるまで

①種もみの準備

種もみを塩水につけて選びます。塩水は真水に比べると種もみが沈みにくいので、中身のしっかりと詰まった重くてよい種もみを選ぶことができます。選んだ種もみは病気にかからないように消毒し、芽が出やすいように水に浸します。

②種まき

育苗箱に土を入れ、種もみをまき、うすく土をかぶせます。

③育苗

温度に気をつけたり水をかけてやります。

④田起し、代かき(しろかき)

土をやわらかくします。また、苗と同じ深さで植えられるように水平にならします。

⑤田植え

一定間隔に苗を数本(3~4本)ずつ植えます。

⑥草とり・草刈り

株が増える時期。雑草をとり、分けつ(増加)を促進させます。

⑦中干し

株が増える時期が終わると、水をぬいて土をかわかします。これは、空気中の酸素を土の中に取り入れ、根をしっかりと張らせるために行います。

⑧出穂・開花

⑨稲刈り・脱穀

⑩乾燥・もみすり

もみ⇒(乾燥)⇒(もみすり)⇒玄米

1粒のもみから何粒のお米が出来るか

- ①もみ1粒が苗になり、20株に分けつ(増加)します。
- ②出穂・開花
- ③1本の穂に約80粒のもみが出来ます。
- ④1杯のご飯は、お米約3,000粒
 ご飯 1杯=米 約3,000粒=もみ 約2粒



もみから白米になるまで



稲からとった実が「もみ」です。これが種もみになります。

もみすりして、もみがらをとったものが「玄米」です。玄米のかたちで取引されています。

精米して、玄米からぬか(胚や種皮)をとったものが「白米」です。

次回のほんなもんぼ体験学校は、**7月16日(日)8:00~**の予定です。

さつま芋のツル返し・除草などを行います。
 詳細は別紙の開催案内をご確認ください。

佐賀市 農業振興課 地産地消推進係 担当:木島、原田
 TEL: 0952-40-7116、FAX: 0952-40-7391
 メール: nogyoshinko@city.saga.lg.jp

雨天順延等の緊急のご連絡は、メールにて行います。
 連絡先に変更のある方はお知らせください。

